

LBS 菜花 (さいか) 植物免疫活性剤

はじめに

従来、植物の免疫力（自然治癒力）は、植物とその根圏内に生息する土壌微生物とのギブ&テイクの共棲関係によってもたらされてきました。

土壌微生物は、植物自身が分泌するブドウ糖を栄養として増殖し、植物は、微生物が分泌生産した免疫関連物質を取り込み蓄えて、自己保全を図っています。

しかし、近年の農業は生産能力向上のため、化学肥料と農業（防虫剤や棒カビ剤等）を多用し、土壌微生物を減らしています。その結果、植物の持つ免疫を低下させ、害虫やカビ等に対する抵抗力が著しく低下しました。更に、植物固有の味や色艶等が失われています。

本製品は、植物の免疫力を高めるため、土壌有用微生物（乳酸菌・納豆菌・酵母菌）に総合ミネラルを加えて、特別の培養を施し創造された植物免疫活性剤です。それが「LBS 菜花」です。

土壌有用微生物の培養産物（LBS カルチャー）は、神戸大学・東京大学・大阪府立大学等の研究機関に於いて各種臨床試験をかさね、免疫の亢進や抗アレルギー作用、抗酸化作用等を確認しています。これらの開発技術と培養のノウハウを活用し、植物の免疫活性剤が出来た次第です。

「LBS 菜花 (さいか)」について（粉末）

成分：土壌有用微生物（乳酸菌・納豆菌・酵母菌）

ミネラル分（マンガン、ホウ素等）

結晶ブドウ糖の培養地で培養した植物免疫活性剤。

- 効果：① 植物の免疫力を高め、種子の発芽を促進し、根張り活着を良くして養分の吸収を高めます。
- ② 植物内の酵素などの活性を高め、害虫の発生を抑制します。
- ③ 土壌中の有用微生物を増殖させ、病原菌を抑えます。

- 特徴：① 植物の成長を促進し、茎や根がしっかりとし、葉は常に青々としします。
- ② 病害虫や病原菌を抑えます。
- ③ 植物本来の姿・色・艶・香り・匂い・味を取り戻します。
- ④ 健やかに成長し、寒さ、日照を気にしません。
- ⑤ 茎や葉の徒長を抑制します。
- ⑥ 開花の期間の延長や、野菜の日持ち効果があります。
- ⑦ 土壌の改良効果があり、土壌の団塊が柔らかくなります。

使用方法 「LBS 菜花 (さいか)」を水で 1000～4000 倍に希釈する。

種子や苗、農作物に散布する。

* 草花・鉢植え・観葉植物等の全ての植物に使用可能。

* 「LBS 菜花 (さいか)」は植物免疫活性剤です。当然肥料の施肥は必要になります。

* 水耕栽培への応用も検討中

価 格 50 g 1, 8 0 0 円 (税別)

1 k g 2 0, 0 0 0 円 (税別)

販売元 **有限会社 サンメアー**

大阪市住吉区大領 5-1-19

TEL 06-6692-0137

FAX 06-6692-0879

<http://h3.dion.jp/~summer/>

E-mail:summer@k6.dion.ne.jp

LBS 菜花（さいか）使用方法

1) 種子の処理

- ① 一般種子は「LBS 彩花（さいか）」1, 000倍希釈液（水1ℓ：LBS 菜花1g）一夜浸漬し、風乾して播種すると、出芽が揃い、健康な苗になる。
- ② 馬鈴薯・里芋等の芋類 1, 000倍希釈液
数分浸漬し、播種すればよい。長時間の浸漬は芋が腐りやすく、お勧めできない。

2) 育苗

- ① 禾本科の植物（稲・麦）1, 000倍希釈液 発芽当初でも散布に耐えられる。
一般的な農作物では本葉が展開するまで葉面散布は避けたほうが良い。
- ② 苗床には1, 000倍希釈液を散水した後、撒種または移植を行うのがよい。
- ③ 苗床から本田に移動する際、前日に2, 000倍希釈液を十分に散水する。
（活着が早く、後の生育に良い影響を及ぼす。）
- ④ 稲においては、田植え予定の一週間前と前日に、本田に1, 000倍希釈液を散布する。
（田植え時に根が良く絡み、活着が早い）

3) 農作物

(A) 一般農作物

「LBS 菜花（さいか）」を初めて使用する場合

- ① 土壌・種子・苗に、いずれも初めて
定植活着後、2, 000倍希釈液を葉面に散布する。
更に、7~10日の間隔をあけて、2回目の散布を行う。
- ② トマト・ナス・キュウリ等の果菜類（果実を食用とする野菜）
20~30日の間隔で、継続して2, 000倍希釈液を葉面に散布する。

「LBS 菜花（さいか）」2回目以降

- ① 土壌・種子・苗で使用したことがある場合
散布する場合は、2, 000倍希釈液を一度だけ葉面に散布する。

(B) 果樹・樹木への応用

- ・樹木1本あたり、5~10gを米ぬかや湿った砂に混ぜて倍散し、樹木の根圏に散布する。
- ・樹木に寄生した貝殻虫や毛虫等の害の防除に役立つ。

4) 農作物の抑制への応用

- ① スイカ・メロン・ウリ等の蔓性作物は、肥料をやりすぎると徒長し、花芽は開花しても流れてしまうケースが散見される。

この場合「LBS 菜花（さいか）」500倍希釈液（水1ℓ：LBS 菜花（さいか）2g）

もしくは、1, 000倍希釈液を噴霧器で葉面散布する。

徒長は抑えられ、円滑な着果がみられる。

1回目の散布後、7~10日経ても着果が困難な場合は、再度散布する。

- ② 水耕では過剰肥料が判明した時点では、なすすべは無い。

大量の堆肥を投入したとか、

毎年稲が倒伏する圃場の場合

10アール当たり2~5kgの「LBS 菜花（さいか）」を予め、施用耕運しておけば倒伏を避けることができる。

5) 鉢植えへの応用

鉢植え植物の苗・花・観葉植物等について

いずれも根が狭い鉢内に閉じ込められている場合

「LBS 菜花 (さいか)」は3, 0 0 0倍希釈液 (水 3 割 : 「LBS 菜花 (さいか)」 1 g)
から5, 0 0 0倍希釈液 (水 5 割 : 「LBS 菜花 (さいか)」 1 g)

の薄い溶液に散布する。

花の色が鮮明になり、葉は艶を増して、満足できる状態になる。

注意：1, 0 0 0倍希釈液等の濃い液では障害が発生や、枯れ死する場合がある。

6) 葉菜類 (ほうれん草・小松菜・チンゲン菜・ター菜等)

葉が2~3枚発生した後

「LBS 菜花 (さいか)」 2, 0 0 0倍希釈液 (水 2 割 : 「LBS 菜花 (さいか)」 1 g)
を葉面散布する。

畑全体に散布しなくても。部分的に実施すれば、7~10日後には、効果が確認できる。

7) 一般家庭の草花や観賞植物

「LBS 菜花 (さいか)」の3, 0 0 0倍希釈液 (水 3 割 : 「LBS 菜花 (さいか)」 1 g)
から4, 0 0 0倍希釈液 (水 4 割 : 「LBS 菜花 (さいか)」 1 g)

の薄い液を葉面に散布する。7~10日後には、効果が確認できる。

8) 節間植物 (トマト・キュウリ等)

肥料が過剰気味で、従長傾向が見られ、雄花は咲くが着果しない場合

「LBS 菜花 (さいか)」の5 0 0倍希釈液 (水 1 割 : 「LBS 菜花 (さいか)」 2 g)
もしくは、1, 0 0 0倍希釈液 (水 1 割 : 「LBS 菜花 (さいか)」 1 g)

を噴霧器で葉面に散布する。

従長は抑えられ、円滑な着果がみられる。

1週間様子を見て、まだ従長が止まらず着果が困難と判断すれば、再度同様の散布を行う。

9) 禾本科植物 (稲・麦等)

水耕栽培においては、出穂の30~35日前後に

節間の伸長を抑え、倒伏の危険を避けるとともに、着粒数の増大確保のため

「LBS 菜花 (さいか)」 2~3 k g を田植え前の水田に、前層施肥をする。

理由：第4~5節間の伸長期に当たっており、更に稲穂の着粒数を決める時期にも当たっており、この時期に肥料が多すぎると、稲穂は大きくなるが倒伏の危険性が増大する。

「LBS 菜花 (さいか)」の使用は、植物の免疫活性剤であり、肥料の施用と密接な関係があります。
あくまで、肥料の代替の商品ではありません。

施肥を助長し、肥料の効果をより発揮できるものであることを重ねてと伝えたいします。

平成 24 年 11 月 21 日

販売元： **有限会社 サンメアー**

大阪市住吉区大領 5-1-19

TEL 06-6692-0137

FAX 06-6692-0879